

医療最前線

「やっぱり我が家が一番」 在宅生活を支える訪問リハビリ②



理学療法士 和田 真澄

前回は、訪問リハビリの制度等について説明しました。今回は、訪問リハビリの実際に沿って紹介していきます。

で、利用者の変化、疼痛の部位、食事・睡眠状況、身体の不調など身体能力を引き出すための状態の把握に努めます。この時点で、体調不良などがある場合は速やかに看護師や主治医に連絡・相談を行います。

■訪問リハビリの実際

訪問リハビリ最大のメリット、それは、住み慣れた家でいつも使っている歩行器や杖、歩行器などを使用し、普段の生活レベルでリハビリを実施すること

・全身状態と身体症状の確認
訪問するとまず、体温・血圧・脈拍・酸素飽和度などのバイタルサインをチェックし、同時に問診を行います。身体機能の回復により動きやすい身体を目指す

・生活動線の中の移動練習
いつもトイレに行くために歩く廊下や、部屋の周りを歩く練習を行います。生活動線（家の中で日常的に移動する経路）を歩くことで、生活上で転倒に

【写真4】階段昇降など生活に必要な動作練習



ができます。

■在宅生活を支えるリハビリ

利用者さまのご自宅等を訪問する上で、現在の病状、生活状況、家族の介護力や介護負担などさまざまな課題に直面します。

・階段昇降など生活に必要な動作練習
エレベーターのない家では、外の階段昇降の練習を行うこともあります。【写真4】の利用者さまの場合は1人で昇降が難しいため、リハビリ終了時に階段昇降を介助の下で行い、通所入浴サービス事業者さまへバトンタッチを行います。このような他の介護支援事業所と連携を図ることも多く、地域の在宅支援サービスを活用することで安心して在宅での生活を送ることができます。

（梶川病院（広島市西区天満町）理学療法士 和田真澄）

【写真1】四肢や体幹の関節可動域運動・ストレッチ



【写真2】生活動線での移動練習



【写真3】ベストポジションバー



（梶川病院（広島市西区天満町）理学療法士 和田真澄）